

事故防止に向けた安全対策

【 アーチェリー 】

1 競技特性

アーチェリーは、18m～70m先の的を狙って矢を射ち、その的中得点を競う競技である。試合中・練習中を問わず、シューティングライン上では一列に整列し、シューティングラインより先に人が入ることは許されない。また、競技進行は音声と信号灯によって管理されているため、競技中の事故はほとんどない。しかし、アーチェリーはもともと狩猟に使用される道具を改良したものであり、殺傷能力が高い。矢のスピードは装備や弓の強さにもよるが、約200～230km/hで、その衝撃力は近距離であれば薄い鉄板を打ち抜くほどと言われている。よって、万が一事故が起こった場合は、重大な事故につながる可能性が極めて高いため、安全に対する注意を怠ってはならない。練習中に、誤った弓具の扱いから起こった事故の報告があるため、未然に防ぐ指導や対策を行っていく必要がある。

2 想定される事故事例と予防策

(1)主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none">・ 弓具の点検不足・ ハンドルにリムが正確にセットされていない・ リムに弦がきちんとかかっていない・ 曲がったり、傷のあるシャフトを使用する・ 折れたシャフトの取扱い・ 競技にふさわしくない服装による行射・ 射場内への人の立入	<ul style="list-style-type: none">・ 弦やリムが当たったところの裂傷や打撲など・ 身体への裂傷や打撲など・ 身体への裂傷・ 弦が当たったところの裂傷や打撲など・ 身体への裂傷や打撲など	<ul style="list-style-type: none">・ 行射前に弓具の点検を普段から行うようにする。・ 弓を組み立てるときに確認をしながら行う。・ 射つ前に弦がかかっているかを確認する。・ 傷がついていたり、曲がっているシャフトを使用しない。点検をしっかり行う。・ ビニールテープなどで触れないようにして、破棄する。(ヒビやキズも同様)・ 身体にフィットした服装を着用し、髪が長い場合はまとめる。・ 行射前の安全確認を徹底し、周囲の安全が確認できるまで、行射を行わない。

(2)主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none">・ 自分の体に合わない強さの弓を使用する・ 矢を抜くときの後方や周辺の確認不足・ 矢をつがえずに弓を引き、弦をはなしてしまう	<ul style="list-style-type: none">・ 筋肉や腱の損傷、手首の腱鞘炎など・ 刺し傷や眼球損傷など・ 弦やリムが当たったところの裂傷や打撲	<ul style="list-style-type: none">・ 自分の体力に見合った強さの弓を使用す・ 正しい弓の引き方をする。・ 矢を抜くときは、後方に人がいないことを必ず確認してから抜く。・ 矢の後ろに立たない。・ 空引きを行わない。

・ サイトの調整ミスやレストアップにより、的後方へ矢が飛んでしまう	・ 身体への裂傷や器物破損	・ 行射を行う前に、サイトおよび矢の位置を確認する。 ・ 防矢ネットの設置や、的後方に畳を置く。
-----------------------------------	---------------	---

(3)主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間におよぶ炎天下での練習や試合 ・ 天候の急激な変化 ・ 冬季練習時、低温による指先のかじかみによる不安定な行射 ・ Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱中症 ・ 落雷による感電 ・ 身体への裂傷や打撲など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帽子の着用や水分をこまめに補給する。 ・ WBGT測定器を使い、31℃を超えるときは活動を一時中断や中止をする。 ・ 雷鳴はもちろんのこと、雲の動きや予報レーダー、雷探知機などを活用して、天候の変化に備える。 ・ カイロ等を用いて指先を温める。 ・ 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備して

参考文献

全国高体連アーチェリー専門部

- ・ 部活動要領
- ・ 高校生のアーチェリー部活動を安全に行うために
- ・ 事故防止のための安全指導対策

公益社団法人 全日本アーチェリー連盟

- ・ 全日本アーチェリー連盟競技規則